

つばさクラブ・なかまのいばしょの支援プログラム

●全体で行う療育プログラムは、ほぼありません。

一人一人がその日の活動を決めており、「君は今日何する？」からその日の活動が始まります。

●科学的なアセスメントツールを使ってデコボコ、つまずき、強みを調べ支援しています。

●意思決定(こうしたい)、自己決定(ぼくはこうでいたい)、自己実現(こうなりたい)を大事にし、その日を、自分らしく、自分の意志や夢を大事に過ごすデイサービス・ライフ。

●仲間、友だちと関わり、育ちあう集団作りを大切にしています。

5領域について

(ア) 健康・生活

項目	支援内容	具体的内容
健康状態の維持・改善 生活習慣や生活リズムの形成	・スタッフによる健康チェック ・安定した日課 ・子どもの興味関心から始まる活動設定	・ルーティンの日課、 ・会話や表情、動きなどの様子のチェック
基本的な生活スキルの獲得 	・更衣、食べる動作、トイレ行動・動作の習得 ・偏食をマイルドにする	・動作の声掛け、※プロンプト（スプーンや鉛筆などの持ち方支援＝手の分離を促す遊び、ボタンはめ外しの動作） ・感覚の過敏への対応方策の検討
生活を自分でする力を育てる	・生活動作を習慣化する ・日々の生活意欲を高める	・スモールステップで生活動作の習得を手助け、声掛け、見守り ・自分の生活を自分でできることを励ます声掛け、支援

※プロンプト：手取り足取り支援者が動かしたり、言葉をそっと伝えて言ってもらうことです

(イ) 運動・感覚

項目	支援内容	具体的内容
・体の姿勢や運動・動作をじょうずに確かに	・歩行や階段昇降の補助、機能向上の支援 ・肢体不自由児の遊び・活動の支援（補助、自助具作成、代替動作の支援：作業療法的アプローチ）	・ダウン症児の階段昇降、筋ジストロフィ児の歩行支援、脳性麻痺児の移動支援、活動補助具の支援など
・身体の移動能力を高める	・座る⇄立つ⇄歩くの動作を指導・支援 ・車いす、歩行器、手すりなどを使った移動スキルの向上	・室内や公園への移動、アクセスの工夫、自助具の作成、手すりの設置
・体いっぱい動かして遊ぶ、活動する 	・手足、体感を大きく動かし、跳んだり跳ねたりくぐったりして体力、筋力、巧みさ、しなやかさを高める ・体を動かし、大きな声を出すことで爽快感、自己同一感を感じる	・公園でブランコ、登り遊具、ボール遊びなど体いっぱい動かす遊びを楽しむ ・室内でもトランポリンやドタバタじゃれっこなどを楽しむ
・感覚の過敏をマイルドに 	・過敏の部位や理由を調べて対応策を考える（日本感覚イベントリー質問紙でチェック） ・感覚逃避をマイルドに	・聴覚過敏：イヤーマフ、デジタル耳栓、静かな場所の確保 ・触覚過敏：触覚ガードとともに脱感的アプローチ ・逃避したいことを避ける環境設定

・感覚の低登録（感じにくい）を感じるように 	・感覚を気にかける、呼び起こす活動、遊び ・入りにくい感覚から問題を考える（日本感覚イベントリー質問用紙でチェック） ・感覚探求（多動やなんでも噛むなど）をマイルドに	・安心して逃げられる場所を用意 ・触覚の低登録：握って遊び、背中文字当てなど ・低緊張：ターザンロープ、綱引きなど ・ボディイメージ：くぐり遊具やダンボール遊び、毛布・寝袋の遊び ・感覚探求による多動を受け止められる活動、遊びの設定
・空間認知能力や手先の巧みさを高める 	・工作、創作で空間的な感覚を養う ・工作、調理などで手先、指先の分離などの巧みさを高める 	・ペーパークラフト、粘土遊び、手芸、クラフト ・おやつづくり、昼食作り
・感覚遊びを楽しむ  	・いろいろな感覚を楽しんで気持ちを満たす ・おやつ作りで味覚や嗅覚の楽しみを経験する	・触覚：スライム、砂遊び、毛布、おやつ作り ・前庭覚：ブランコ、トランポリン、登り遊具 ・聴覚：音楽リスニング ・味覚、嗅覚：おやつ作り 



(ウ) 認知・行動

項目	支援内容	具体的内容
・自閉症の子の外界の認知力を高める	・視覚的なサインや情報を使って外界の説明や、うまくいく方法を伝える ・その子の認知世界を共有しながら楽しい時間づくり	・TEACCH的な支援や環境設定 ・ファンタジーや感覚遊びを一緒に楽しみながら関りを作る支援スタイル
・愛着障害を持つ子の自己肯定感や愛着を育てる	・依存やアピール行動を受け止めながら落ち着いて満たされる生活実感を作る	・ふれあい、声掛け、感覚の穏やかな充足ができる遊具・用具の設定
・自己同一感、自己肯定感、自己有能感を高める 	・学校や家庭などで摩擦が多い子の「おれがいけない」「おれはダメな奴」の認知を「おれでもいい」「これでもいいのか」と思える声掛け、支援	・強み（ストレングス）を見つけ、伸ばす声かけ、活動設定 ・友だち・仲間のつながりで語り合い、励まし合う関係づくり
・学習障害の子の自己認知と学習支援 	・学校での「学びづらさ」の状態の分析と対応策を考える ・学習障害の自己認知を進めて自己肯定感を高める	・書字障害、算数障害、不器用障害などを検査シートなどで調べる ・自助具や代替手段などを本人と一緒に見つける ・できることを本人と確認しながら強みを伸ばす活動を提案する
・ADHD児の多動をマイルドに注意を高める 	・多動になる時間を保障し、自己を開放できる場を設ける ・多動で周りに迷惑になる状況をコントロールする認知を支援する ・過集中でできる活動、遊びを見つける ・注意がそれる、うっかりが起こる、忘れ物するなどの状態がマイルドになる	・動いていい場所、時間、内容を保障して発散をする ・自分コントロールをする話し合い、実践、褒める支援 ・集中して取り組んで「落ち着ける」「褒められる」「自分らしい時間」を過ごせる指導 ・「行動想起パネル」「動作ルーティン」などの注意補完プログラムを指導
・キレ行動、自傷他害、癇癪など行動障害の予防、対応	・感覚回避、感覚探求、他者理解の歪み、環境の不理解などをもとにし	・原因の理論的・心理的分析をもとに①原因の排除、②本人への語り

	た行動障害の理解とその対応	掛け、予防的に行動する働きかけを行う
・科学的、博物的、知識的な興味関心を満たす	・図鑑や辞典などで興味関心を心行くまで追求する	・教材の提供、場所の確保 ・必要なら図書館へ ・スタッフがしっかり話を聞きながら

(エ) 言語・コミュニケーション

項目	支援内容	具体的内容
・コミュニケーションの意欲、楽しさを高める 	・人に伝えたい、話したいという意欲を高めて、そのための能力をつける ・話せなくてもゼスチャーやサイン、カードで話す	・スタッフや友だちとの会話おしゃべりの場面を大切に ・しりとり、なぞなぞ、シャレ、ギャグを楽しむ ・ゼスチャー、手のサイン、カード、文字ボードで伝えられることを指導する
・言葉をたくさん覚えてたくさん話す 	・友だちやスタッフと話す中で語彙を増やしたり、話し言葉のつながりを覚えたり、言い回しを覚えて楽しむ	・「言葉図鑑」など言葉を見て知る絵本やかるたなどでいろいろな言葉を見られる ・遊びや活動の中で自由に話し、自由に交わる仲間関係の中で話し方を学ぶ
・言葉をうまく発音・発話し、うまく伝える	・5W1H（いつ、どこで、だれが、どんな風に、どうした）を整えた話し方のトレーニング ・発音・発話の指導	・日々の会話の中で伝え方の指導 ・発音の整わない子に対してST訓練的な支援を、遊びや活動の中で行う
・相手と気持ちの通うコミュニケーション能力を高める 	・遊びや活動の中で気持ちが通じたときの楽しさを味わう ・キャッチボールなどの活動の中で、言葉にならないコミュニケーションのあり方を知る 	・要求・拒否から気持ちを表す、交流を楽しむ言葉をスタッフが示しながら、必要な言葉の機能のモデルを学んでもらう ・ごっこあそび、ままごと、カードゲームなどの活動で、会話して楽しむ経験をたくさんする ・キャッチボール、サッカーのパス合い、バドミントンなどの活動で相手の様子を見たり、声の掛け合いを学ぶ
・いろいろなコミュニケーションの方法を使って交流する	・手紙やメール、手話、ゼスチャーなど話し言葉だけでなくコミュニケーション方法を使えるようにする	・手紙やメモで相手に伝える（不安の強い子、緘黙の子など） ・スマホやタブレットによる打ち込みコミュニケーションを提案する
・状況に応じたコミュニケーション	・相手を思いやった言葉遣い、話し方、声のかけ方がうまくなる	・相手の気持ち、好き嫌い、立場、都合を考えた返し方を、活動の中でスタッフがガイドする
・字を読んで書く力を高める 	・ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット～英語を使う活動を遊びや活動の中で意欲的に学ぶ ・伝えるために書く活動で字を書くことに慣れる ・遊びや活動で文字や記号に親しむ	・日々の日課ボードや本などで字から情報を得る体験を重ねる ・誰かに何かを伝えるために書く活動をする ・ウノやトランプ、かるたなどのゲームで文字や記号に親しむ

(オ) 人間関係・社会性

項目	支援内容	具体的内容
・スタッフや仲間、友だちなど人への信頼・愛着を高める 	・友だち、仲間、スタッフと話したり、語り合ったり、ふざけ合ったり、じゃれ合ったり、触れ合ったりして、心地いい距離感関係性、信頼感を学ぶ ・愛着障害の子に対し、デリケートな声掛け、対応をしながら大人や他者に対して信頼ができるような関りをもつ	・平行な遊び、ごっこ遊び、ふれあい遊びをする中で距離感やふれあい、信頼感を高められるようスタッフが仲立ちする ・愛着障害から来る不適応行動をしっかりアセスメントし、粘り強く支援する
・穏やかにポジティブな気分で過ごす	・それぞれの子が心穏やかに、楽しみに、心躍らせることもあるような人間関係・仲間関係を作れるようにする	・からの不調や心、精神の不調などをしっかりスタッフが見守り、必要な声掛け、ケアをする
・友だち、なかまとの関係、結びつきを作る 	・一緒にいる～二人で同じ遊びで遊ぶ～ごっこ遊びする～楽しみを共有する～心の交流をするまでの社会性を高める	・ままごと、ごっこ遊び、かくれんぼ、鬼ごっこ、ドッチボールなどで仲間の中で過ごすことを多く体験する
・仲間の中で遊びや活動が発達する	・一緒にいる～同じ遊びをする～ごっこをする～心の交流をする～語り合い励まし合うに	・発達の道筋に合った遊びや交流の方法をスタッフが仲立ちする
・自己の理解とセルフコントロール 	・性格特性や障害特性を、それぞれの子の発達状態に合わせた説明や対処法を指導する	・困っている場面、キレそうな場面で感情の表し方、伝え方をスタッフが例示したりモデルを見せながら、セルフコントロールする体験を積んでもらう
・縦割り集団のなかま 集団での人間関係の学びを 	・上級生がモデルを見せ、教え、面倒を見、それが次の子たちへの指導になる集団生活	・上級生に遊びや仲間との関係の持ちかたを学びながら、次は下級生に教えていく、お互いに育ちあう関係性を体験する

(カ)意思決定・自己決定・自己実現

項目	支援内容	具体的内容
・自分の放課後は自分のもの 	・自分のやりたいこと、居たい過ごし方を主体的に決めて過ごす	・やりたいことや試したいことを自分で決めたり、スタッフにリクエストしたりして、自分らしい時間を過ごす
・自分の将来像を考えてみる	・自分がどう成長したいか、どういう大人になりたいかを遠望する	・スタッフとともに強みやつまずき、希望を持っているかを語りながら、社会に出ていく自信の持てるイメージを持つ
・自分の得意なものを伸ばす ・自分をなぐさめ、励まし、支えになることを見つける ・自分の感性や世界観を高める 	・楽器、特技、趣味、興味、関心に向き合い、高く広く深く追及する 	・道具や材料を用意し、時間と場所を保障して、その子が障害を持っても、より高い自己実現ができるよう支援する ・共有できる仲間づくりをサポートしたり、出かけて行って見分できる機会を設定する